

## 9月10日・ローターの友月間について

今月はローターの友月間になっています。(日本では)日本の公式機関誌「ローターの友」は1953年(昭和28年)1月に創刊されました。創刊当初は3300部、62年後の2014年7月号では約9万5200部で、今年の9月号で通巻753号になっています。「ローターの友」の名前は岐阜クラブの遠藤健三氏の名称が採用されましたが、その由来は当時の女性雑誌「主婦の友」にあやかって命名されたと言われてはいますが「ビールの友」からきているという説もあるそうです。「ローターの友」は今から63年前の1952年に当時日本のローターが1地区から2地区、第60地区と第61地区に分割された際に両地区の将来的な交流を図るために創刊しました。しかし創刊に至るまでは大変な議論があったようで西の61地区は謄写版刷りの簡単なものでいいから早く発刊をという主張(大阪案)を提出し、東の第60地区は謄写版では手軽すぎて耐久性がない初めからある程度きちんとしたものという主張(東京案)を提出し、東西合同会議が開かれ東京案と大阪案を各クラブに提示してアンケートまでとったそうです。東京案は発行所を東京とし定価100円ひらがな使用、組み方は縦・横両論。大阪案は発行所が大阪で謄写版印刷、定価20円かた使用で横組。結局アンケートの結果を総合勘案して発行所は東京、定価50円、活版印刷ひらがな横組みとなったが原価計算では100円になるというものが採用されたそうです。その差を埋めるのに大変な苦労があったようです。創刊号以後定価50円、1954年1月号から1962年まで定価100円、1963年1月号から1974年まで定価110円、1975年1月号から現在に至るまでの40年間、定価200円。創刊から現在まで62年間ですが、そのうちの後半40年間も値上はありませんがいつまで持つか心配だそうです。この間の1979年7月号から1年間の試行期間を経て1980年7月号からRI公式地域雑誌(現、ローター地域雑誌)に指定されました。現在「The Rotarian」を含め31の地域雑誌を総評してローター・ワールド・マガジンズ(Rotary World Magazine Press)と呼ばれています。ローターの友の購読は、ローターズの三大義務である「例会の出席」「会費の納入」「ローター雑誌の購読」の1つであります。会員としての義務規定の多くは、ローター活動に全面的に参加し、その体験を楽しむことを目的に定められています。私たちがローターから何を求めるのかはローターで何をしたかにかかっているかだと思います。幅広い奉仕をするために近郊のクラブや2710地区のことばかりではなく、世界中のクラブやローターズのことを知らなければなりません。しかし、世界の各地に出かけて多くのローターズに会いいろいろな活動を見ることはそうは簡単にできることではありません。ローターの友などの雑誌から情報を入手して、それを実際の活動に生かして欲しいと思います。ローターの友についてお話をしました。